2020年8月23日　司祭　越山　哲也
八戸聖ルカ教会

聖霊降臨後第12主日（特定16）　説教

「私たち一人一人が天の国のキーマン」

〔旧約聖書〕	ｲｻﾞﾔ書　51:1~6
〔使徒書〕	ﾛｰﾏの信徒への手紙　11:33～36
〔福音書〕	ﾏﾀｲによる福音書16：13～20

主の平和が皆さんと共にありますように。

本日の福音書は弟子のﾍﾟﾄﾛが「あなたは神の子メシア、生ける神の子です。」（ﾏﾀｲ16:16）と信仰告白をし、ｲｴｽ様から天の国の鍵を授かります。大変重要な場面です。

そして見落としてはいけない点は、この出来事が起こった場所です。場所は、フィリポ・カイサリア地方でした。この町は異教の神や皇帝を礼拝する神殿の町でした。

天の国（神の国）への招きは最初はイスラエルの民のみに与えられていました。これがすべての人への招きへと広がるためにはある重要なことが必要でした。それは、イエス様が苦しみを受けて十字架にかけられて殺され、復活してすべての人間の罪を贖うことです。

「神の子」イエスは、それを成し遂げるために私たちのもとに来られたのです。神の国と全く離れた関係にあった異教の町　フィリポ・カイサリア地方でイエス様が弟子たちに「私は何者だと思うのか」と問われたのは非常に深い意味があったのです。

イエス様が一体何者なのかが明らかにされたのですが、弟子たちをはじめ多くのイスラエル人が抱いていた力強い解放者としてのメシア像を抱いていました。しかし、イエス様はこの世界から捨てられ、殺されて復活することによって人々を救い、すべての人々を「天の国」へと招き入れる方です。

人々の思いとイエス様の思いには大きな違いがあります。ですから、弟子たちに対して、「御自分がメシアであることをだれにも話さないように」（ﾏﾀｲ16:20）命じられたのです。

鍵をたくされたﾍﾟﾄﾛでさえまだまだ理解していません。ですから、鍵を託されたという事の意味、そしてこれからﾍﾟﾄﾛに期待されていることを彼自身まだよく分かっていませんでした。

「鍵」は建物の施錠を解いたり、閉めたりするｲﾒｰｼﾞがありますが、「天の国」はある特定の場所、また実際に鍵のついた建物があるわけではないと思います。

「鍵」という言葉を紐解くキーワードは「つなぐ、解く」という動詞です。この動詞は律法の専門家が用いた専門用語で、律法を読み解いて人々に伝え、また律法に基づいて決定をするときの言葉でした。当時、人々は専門家たちによって「律法」という背負いきれないほどの重荷を負わされていました。イエス様はご自身の死と復活によって、この重荷を解放し、神様の救いの計画である天の国の完成に向けて悔い改めて共に歩もうと呼びかけました。

そうです。ペトロに与えられた「鍵」は、人々に天の国へと招く、すべての人に天の国は開かれているという事を示す「鍵」なのです。まさに、ペトロ自身が「キーマン」なのです。

ペトロ自身がこの事の重みをどれだけ理解していたかというと残念ながらほとんど理解出来ていなかったと思います。

それでもイエス様が彼に「鍵」を渡したのはなぜか、それはペトロがイエス様にとって愛すべき存在だったからです。愛すべき存在とは、ペトロはとても人間臭いと私は思うのです。弱さ丸出しのいわゆる「かっこわるい」姿も彼はたくさん露呈します。イエス様からも何度も何度も叱咤されます。それでも尚、イエス様の天の国の完成に向けて共に歩もうという呼びかけに応えようとしたのです。

神の呼びかけに応えようとしている者をイエス様は信頼してあなたが「キーマン」ですよと言われたのではないでしょうか。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公開の礼拝を休止していた時に出会った言葉を私は思いだしています。

「教会は閉じているのではありません。ただ、建物だけを閉じているのです。なぜなら、私たちが教会だからです。私たちこそが、主イエス・キリストの生ける（からだ）だからです。そして、わたしたちはこの世界中、至るところに存在しているからです」(アングリカンコミュニオン公式ホームページより)

教会とはイエス様に名指しで呼ばれた人たちの集まりです。ペトロにイエス様が鍵を渡したように弱さを抱えた私たち一人一人も天の国の完成に向けて歩む「キーマン」なのだということを私は今日の福音書を通してイエス様からの力強いメッセージとして受け止めたいと思います。